



分科会 12 より安全で安心ながん医療への貢献 ～病院薬剤師、薬局薬剤師それぞれの役割～

10月8日(月・祝) 9:00～11:30 第2会場(アクトシティ浜松 コンgressセンター 3F 31会議室)

W-12-04

がん連携パスと薬剤師活動

いまがわ ふみのり
今川 文典

京都市立病院・薬剤科

京都がん薬剤業務連携協議会(以下、本協議会という)は、平成19年に京都府内に「がん診療連携拠点病院」が設置されたのを機に、指定病院の薬剤部長等が中心となり開設しました。本協議会の目的は、「薬剤師が患者様に質の高いがん薬物療法を提供するために、研修会を開催するとともに、がん薬剤業務を推進する」としています。本協議会は、世話人会、がん薬物業務推進会議、研修会の3部門構成です。世話人会は、最初は10名でしたが、京都府にがん診療連携拠点病院以外に京都府がん診療連携病院、京都府がん診療推進病院が追加されたのを受けその指定病院の薬剤部長を加え、また京都府薬剤師会から理事等の3名が参加して、現在は22名です。その世話人会にて本協議会の方針を決めています。がん薬物業務推進会議は、がん担当薬剤師を中心にがん薬剤業務について情報交換、各病院の見学会などをして、レジメン管理、患者さんへの説明書、自己管理ノートなどの業務について検討・推進しています。そして今後は、外来化学療法室に薬剤師が常駐する病院が増える中、その業務についての情報交換と推進を図りたいと考えています。研修会は、がん薬物療法をテーマとして主に京都府の薬剤師を対象に開催しています。今後の予定としては、がん化学療法における副作用軽減や緩和薬物療法などに対する共同薬物治療管理(CDTM)についても勉強していきたいと考えています。平成23年9月から、京都府・京都府医師会・京都府がん医療戦略推進会議の連名により5大がん(胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、肝がん)における「がん地域連携手帳(京都府統一版)」の運用が開始されました。この手帳には、手術病院名、かかりつけ医療機関名とともにかかりつけ薬局名の記入欄があり、また薬剤師、看護師、MSW等の記入欄も設けてあります。お薬手帳とも併用して用いることとしていますが、まだその活用は不十分です。このことは、京都府内で運用されている大腿骨近位部骨折パス、脳卒中パスに対し退院時には病院薬剤師が関与していますが、地域医療として薬剤師の関与はまだ不十分であり、がん地域連携パスと同様に推進が望まれているところです。また、平成22年4月に京都府薬剤師会と京都府病院薬剤師会が統合され、会員は支部単位の活動もしています。例えば、中京支部では、2ヶ月に1度の程度で薬局薬剤師と病院薬剤師が会合を開き、年に数回は地域の医師等との研修会をしています。この中京支部では、薬剤師が地域医療の一員としてより役立つために、患者、医師、看護師、薬剤師を対象としたお薬手帳のアンケートを行い、また退院時共同指導を実施しようとしています。患者個々の薬物治療に対して連携を図るには、このような密接なコミュニケーションが取れる関係から開始するのが良いのではと考えています。このような中で、本協議会のメンバーが各自で実施している業務の情報や知っている情報を交換して、良いところをお互いに取り入れ各自で改善し、またそれを発信していくことが、がん患者に貢献できる地域医療の薬剤師となる1つの方法と考え活動しようとしています。このセッションで、本協議会に対するアドバイスをいただければ幸いです。